

2 政策手段に係る重点分野

■ 環境教育・環境学習の推進

～市民のライフスタイルの改革に向けた取組の推進～

重点 目標

環境教育・環境学習の場や機会の充実、人材育成等の基盤整備を目指す。

施策の概要

地域の環境問題や地球環境問題を解決していくためには、市民一人ひとりが環境に配慮したライフスタイルを実践し、また、事業者も資源・エネルギーを大量に消費する生産や流通のあり方を見直し、環境にやさしい事業活動を行うことにより、社会全体を持続可能な循環型のものに転換していくことが必要です。その基礎をなすものとして、環境教育・学習は、ますますその重要性が認識されています。

市では、1995年に、環境教育・学習を計画的かつ効果的に推進していくためのガイドラインとなる「川崎市環境教育・学習基本方針」（2005年度改訂）を策定しました。この基本方針に基づき、毎年、環境教育・学習に関する事業実施計画を策定し、庁内関係機関が実施する事業の連携を図っています。

市が実施している主な事業としては、環境副読本等の教材の作成・配布、社会教育施設等におけるセミナーや学習会等の開催のほか、事業概要や環境情報等の発行により、環境教育に資する情報の提供を行っています。

また、人材育成として地域環境リーダー育成講座、緑とボランティア育成講座等を実施しており、講座の修了者は、地域における環境保全活動のリーダーとして活躍するなど、主体的に環境保全活動に取り組んでいます。

重点的取組事項の実施状況

● 環境教育・環境学習事業の内容の充実

・ 体験型環境学習の推進及び副読本等の教材・プログラムの充実・強化

1 環境副読本の編集配布

- (1) 環境副読本「わたしたちの暮らしと環境 明るい未来に向かって」（小学校4・5・6年生用）、「あしたをつかめ!Yes, We Can!」（中学校1・2・3年生用）を作成配布しました。
- (2) 社会科副読本「くらしとごみ」を小学校3・4年生に配布し、廃棄物の収集・処理・リサイクルについての学習の資料としています。

2 体験型環境学習

- (1) 公害研究所では「環境科学教室」、「オープンラボ」等を開催するとともに、総合的な学習への協力として「環境に関する教室」を開催しました。
- (2) 川崎市内の小中学生への学習会・全国中学生と高校生への修学旅行での体験学習を実施しました。（内容は、環境教育・学習・水環境と化学物質の講義です）。

3 環境学習資料の作成

公害研究所では、市民団体等を対象とした、「空気のよこれ」、「川の生きもの」、「私たちのごみと環境」などの環境に関する小冊子を発行しています。2004年度は「川の生きものの下敷き」を増刷しました。

・学校における環境教育の充実・強化

2005年度は、市立小学校114校中114校、市立中学校51校中41校が、「総合的な学習の時間」で学校・地域の特色を活かし、「環境学習」に取り組んでいます。

○主な内容は、

- ・水に関すること（河川、水源など）
- ・自然保護活動、森林に関すること（水資源、森林破壊など）
- ・地球規模の環境問題（地球の温暖化、砂漠化、酸性雨など）
- ・大気に関すること（大気汚染など）
- ・植物栽培、動物飼育、ビオトープなどに関すること等です。

○主な活動は、

- ・省エネ活動、資源収集・リサイクル活動、地域との関わりを持つ活動などの体験活動
- ・地域の人材活用、他地域の学校などとの交流、見学・調査活動
- ・ボランティア活動、表現活動（作品化、発表会など）、関係機関の協力や連携等
- ・かわさき地球温暖化対策推進協議会・市民部会の企画によるエコショッピング・クッキングの実施等です。

「総合的な学習の時間」での環境学習についてもその取組を進めるため、環境副読本（毎年）・環境副読本活用事例集（2003年度）を配布し、副読本を活用した環境学習への取組を啓発するとともに、環境学習支援のため、人材派遣などの協力を行っています。

・幼児環境教育の推進

幼児環境教育は、人間形成の基礎を培う幼児期より、自然に触れ合い、自然の大きさ、美しさ等に直接触れる体験を通じて、自然に対する豊かな感性や、持続可能な社会を築く環境に配慮した生活習慣を身に付けること等の力を養います。2005年度はモデル幼稚園のカリキュラムに幼児環境プログラムを組入れて実施し、川崎市幼児環境教育モデル事業実施報告書として取りまとめました。

・IT等を活用した情報交換・交流の場の整備

2003年度から、市の環境教育・学習に関する総合的な窓口となるホームページを開設しています。HPアドレス<http://www.city.kawasaki.jp/30/30kantyo/home/gakusyuu/top.htm>

●環境教育・環境学習推進のための基盤整備

・地域環境リーダーや緑化推進リーダー等環境教育・環境学習や環境保全活動の核となる人材の計画的な育成

「地域環境リーダー育成講座」は、地域や職場で環境学習や環境保全活動を率先して行うことのできる人材の育成を目的に、市内在住又は在勤の方を対象に1995年度から実施しています。2005年度は12名が講座を修了し、これまでの講座修了者は147名となりました。また、「エコフェスタ 2006」一環境って何だろう？—をテーマに、地域環境環リーダ－会の企画・運営による市民活動団体の活動報告や交流会をするなどして、地域での環境保全活動の輪を広げています。

・環境教育・環境学習、環境保全活動を総合的に推進する拠点づくり

1 川崎市市立小学校における省エネ共和国

「省エネ共和国」は地球温暖化防止のために学校、商店街、家庭や地域など、身近な場で日常的な省エネルギー活動の取組みを進めるため（財）省エネルギーセンターが実施しています。川崎市では、1998年に市立新町小学校が市内ではじめて登録（共和国宣言）し、2005年までに川崎区の市立小中学校を中心に現在21校（全国で57校）が登録して、次のような活動を行っています。

○省エネ共和国の主な活動

- ・省エネ共和国を校内外に表示
- ・「省エネナビ」を活用した省エネ活動
- ・各校独自の省エネ活動の推進
- ・家庭、地域への省エネ活動への発信や連携推進

2 省エネルギー教育モデル校

（財）省エネルギーセンターの募集に応じて、2001年度に市立新町小学校が、2003年度には市立升形中学校等がモデル校となり、それぞれ3年間の研究推進に当たって

緑化推進 リーダー

緑の保全及び緑化の推進に関し、地域における市民の自主的な活動の指導的な役割を担う。市では、講習会の開催その他必要な支援を行う。

きました。2005年度には、市立宮前小学校がモデル校になり、モデル校は市内小中学校で10校となりました。(全国で673校)

○主な活動

- ・「省エネナビ」を活用した省エネ活動
- ・各校独自の省エネ活動の推進
- ・家庭、地域への省エネ活動への発信や連携推進 等

3 環境教育・環境学習に関する学際的な調査研究部門の設置

今日の複雑・多様化した環境問題に対し、科学的な裏付けを持った行政施策を展開するため、(仮称)環境科学総合研究所の整備に向けて検討を行っています。

この新しい研究所の整備に向けた検討の中で、現在行っている環境・教室・学習事業の強化を図り、様々な環境教育・学習事業の推進を目指しています。

●環境保全に関する活動等を通じた環境教育・環境学習の促進

・住民参加の手法を取り入れたビオトープづくりや身近な公園緑地等の管理を通じた環境教育・環境学習の促進

- 1 ビオトープ利用について、モデル校を3校（戸手小学校、住吉小学校、西生田小学校）設けて実践研究に当たっています。
- 2 「総合的な学習の時間」の環境学習において、既存の水生植物園や鑑賞池・流水施設を活用したビオトープづくりを行っている学校が18校あります。
 - ・「2001年度教育研究課題」「環境教育」-ビオトープを通して-西菅小学校
 - ・地域の市民団体の協力によるビオトープづくり-夢見が崎小学校

・川崎らしい歴史的文化的資源や自然資源の選定等による環境教育・環境学習の促進

- 1 生田緑地での自然観察会
- 2 かつて盛んであった川崎臨海部の海苔づくりについて「海苔つけ」体験を行っている学校があります。
 - ・地域の方の協力を得た「海苔つけ」体験-殿町小学校、大師小学校 他
 - ・川崎マリエンで行われる川崎の海の歴史保存会による体験学習の紹介
- 3 平瀬川、矢上川、多摩川等の河川における環境学習
 - ・市民団体との連携・協力による河川の自然観察・地域清掃活動等
 - ・河川の下流・中流に位置する小学校の交流を通じた体験学習
 - ・河川の環境調査、水質検査などを通じた環境学習
 - ・「水辺の楽校」への参加、広報など

・学校及び公共施設等への太陽光発電システム等の自然エネルギー利用施設の導入による利用者の意識啓発の推進

- 1 2005年度は、宮前スポーツセンター、多摩病院等々に太陽光発電システムと発電電力量の表示パネルを設置しました。
- 2 市立学校の改築等にあわせて太陽光発電システムを導入し、あわせてソーラー街灯の設置を進めています。

・太陽光発電システム実施校	1999年度～2005年度	8校
・ソーラー街灯設置校		7校

太陽光発電システム

太陽熱を利用して冷暖房や給湯を行うシステム。専用の機器を用いるタイプと構造、間取り等の設計手法によって太陽熱や自然の通風を利用するタイプがある。